

体操競技における大学生のキャリアプランニング実態調査と分析

Career planning fact finding and the analysis of the university student of gymnastics

1K07A018-1 伊地知 慶之

指導教員 主査 中村 好男 副査 土屋 純

【目的】

スポーツ選手として活躍するには膨大な時間とエネルギーを費やして技術や技能を磨かなければならず、そのために教育や他の活動に費やす時間を犠牲にすると、いざ第二の人生を歩もうとするときにはすべてが手遅れになっているということが起こりうる。スポーツ選手として成功をおさめ、プロ選手として活躍した者もいるが、その誰もが引退後の人生に対しての心構えや新しいキャリア探しについては準備ができていないわけではない。さらにスポーツによっては、その受け皿という将来の環境が整っていない状況もあり、将来その道で生きていくことが困難な選手も少なくない。

そこで、本研究の目的は、このような現状で卒業後の進路を決めた今年の卒業生と、卒業を迎えるであろう1、2、3年生の体操競技を行っている男子大学生の進路に対する意識とその高校・大学時のトランジションにおける選択理由について調査し分析する。

【方法】

平成22年度全日本学生選手権1部校の上位6校の男子大学生154名を対象に質問紙によるアンケート調査を行った。調査期日は平成22年11月11日～20日、国際大会出場選手など多忙な選手がいる学校も全員回答してくれ、回収率は100%(回答者数154名)であった。

【結果】

今回調査を行った選手中にはオリンピック出場者から全日本学生選手権に出ていない選手まで幅広い競技レベルの選手が属している。現時点の4年生の進路決定状況は「決まっている」63%、「決まっていない」が37%という結果になった。4年生の卒業後競技継続者は優勝校4人、5位校3人、4位校2人、準優勝校・6位

校1人という結果になった。3年生以下では15.1%が続けると答えており45.2%が続けないと答えている。分からないという継続希望の意志を持った選手は39.7%となった。大学進学において卒業後の進路先は考えたかという調査において「考えた」18.8%「考えていない」81.2%という結果になった。

【考察】

1部校の上位6校の男子体操選手のキャリアプランニングは大半が競技を継続することに重きを置いており、将来一般企業などに就職をしても、体操競技を行うことの出来る環境があれば行いたいと考えていることが明らかになった。卒業後のキャリアプランニングを行っている選手は2割程度しかいない。選手が今後注意しなければならないことはキャリアプランニングの方法を知っておくということである。ただ漠然と夢を持っていることがキャリアプランニングというわけではなく自分の能力・価値観を将来の進みたい道と照らし合わせ、人生の大きな方向を決めそれに向かって行動することがキャリアプランニングなのである。選手は大学在学中にこうしたキャリアの計画を立てることが人生の成功と失敗に大きく関係してくるため、重要な作業であると認識する必要がある。また選手はスポーツならではの怪我による急な引退を強いられることもありキャリアプランニングの重要性は過去にも増して大きくなってきている。側面的な環境の整備の充実をはかると共に選手自身のキャリア教育における環境も整えていかなければ、今後体操競技の発展はどうか社会での位置づけが低くなる一方であると考えられる。選手自身はもちろん、指導者及び体操関係者にキャリアプランニングの必要性が十分認識され、体操協会等の組織全体による体操選手に向けたキャリア教育の必要性が本研究によって示唆された。